

熊本紀行

熊本へ行く予きた。同地出身の重岡兄弟の凱旋興行のマッチメーカーのためだ。計量の前日昼過ぎ、羽田から熊本へ飛んだ。三時間弱で着いたが、台風の中だった。一旦ホテルにチェックインしてから、徒歩五分の桜町バスターミナルへタイ人役員二名の出迎えに行った。彼らは福岡国際空港に着き、そこから

バスで熊本まで移動する。台風のためバスが遅れたうえ、彼らは荷物があるのでもう歩ンソールホテルへは行けな。それほど土砂降りだった。タクシー乗り場まで一時間ほど待ち、ちやっとホテルに彼らを入れた。

翌朝、彼らと熊本見物に誘った。雨はあがり蒸し暑い。タクシーを二時間貸し切り名所を巡った。まずは水前寺公園だ。中に成趣園とソール広場、優雅な庭園がある。一周したあと休憩所で涼を取り冷えた茶を味わう。

た。夏目漱石は五高の英語教師として四年
教鞭をとり九首の俳句を詠んだという。

たもまば

—ゆ縄や春の水湧く水前寺

湧くわきに流るゝわきに春の水

帰途、熊本城下車を降りた。六年前、

地震で石垣が崩れたが、もう完全に復旧

されてゐる。タクシー運転手によると、虎退治

で有名な加藤清正は築城治水の才が

あり、彼が築った石垣がいまも踏襲されてい

らびうだ。

天守閣まで昇り熊本市全体を俯瞰する。
「タイには美しい寺院が数多くあるが、
こんな高い城はない」と言う。

一二年以上、コロナ禍のため国内と見え
ども移動が制限されてきた。

いま熊本城から見おろす視界に、何か
広々と一帯幸ぞ自由な空気を感じた。

了

令和四年七月十日 記